

『6000人の命のビザ～杉原千畝物語～』

先日に引き続き、本日はもう一方のクラスの生徒が書いた感想文です。

【生徒感想文より抜粋】

- ・上の人からビザを書くことを認めてもらうことができなかつたが、杉原千畝さんは自身の信念を曲げずにビザを書いたのですごい人だと思った。
最後の最後までビザを書き続け、6000人の命を救ったことは本当に素晴らしいと思う。
- ・汚名をさせられたまま亡くなつて、その後に認められてよかったです。
- ・吉川晃司主演の『SEMPO』というミュージカルで杉原千畝さんことは知っていましたが、今回の授業で、もっと千畝さんという人間を知ることができました。
- ・杉原千畝さんがしたことは素晴らしいと思います。しかし、自分があの立場に立つたら、同じことをできたかどうか不安になります。テレビで見てるだけでは杉原千畝さんが正しいということは分かるけど、実際、集団に流されて、そんな事をするのは難しいと思います。そんな中、千畝さんは集団心理に負けず、正しいことを行つたことに対して感動しました。
- ・大人って汚いなって思った。権力持つた大人が勝手に戦争初めて大人も子どもも関係なく虐殺して、でも権力持つた大人は終戦まで生きてて、何千、何万と死ぬのに。命救つた人が非難されて、何十年もたつたら謝罪する。その人はもう生きていないので。おそい。終戦後、日本は平和主義になったのに、どうしてその時謝罪しなかつたんだろう。千畝さんはすごいと思った。みんなに非難されてもビザを書き続けたんだから。
- ・自分の信念を曲げないことはとても大事なんだなと思った。悪いほうに転がることもあるけど、考えて曲げる曲げないを決めればいいと思った。
- ・ユダヤ人と自分の家族を守るために全部、自分が背負つてビザを渡したなんて、すごいと思います。杉原さんはたたえられるべきなのに、子どもや義妹さんが亡くなつて、外交官もやめさせられて、とてもかわいそうだった。でも、最後はビザを渡した人に会えてよかったです。
- ・このドラマを見て、なんか千畝さんはすごい人やなと思った。本当にすごいし、あきらめずに、がんばつていた人やつたなと思った。あと、最後にめぐり会えたのは良かったと思う。このドラマを見てよかったです。
- ・すごかった。
- ・3回目のドキュメントだったけど、まあまあ面白かったです。あと、杉原さん以外にもユダヤ人の命を救つた有名な人がいたはずです。
確かに、ユダヤ人を乗せた船の船員が日本人だったはず。波が激しくて、船がすごい揺れています。その人がユダヤ人をずっと励ましたり、いろいろフォローしていたとのこと。※

※大迫辰雄…ジャパン・トラベル・ビューロー(現在のJTBの前身)の職員。

- ・ユダヤ人を嫌う国はヨーロッパにたくさんある。日本だってそう。隣の韓国や中国にも嫌われている。だが、逆に日本が好きな国だってある。僕は、イギリス・フランス・ドイツ・フィリピンにいる友人に聞いてみれば、大好きと返ってくる。ユダヤ人のことも好きな国だってどこかに絶対あると思う。杉原さんはユダヤ人を1人でも多く救おうとして、今でもユダヤ人は杉原千畝さんことを尊敬する人もいるそうです。でも、友好国でも日本を嫌う人はどこでもいたりする。

- ・杉原千畝さんはいい人だ！ぼくもこの人みたいになりたいと思った！！
 - ・いい話だと思った。
 - ・自分も世界に誇れる人になりたい。
 - ・ユダヤ人に対してのひどい差別が本当にかわいそうと思った。杉原千畝さんが、ユダヤ人のためにビザをずっと手がおかしくなるまで書き続けたおかげで、たくさんの人が助かったけど、最後電車のホームでビザを書いてもらうことが出来なかった男の子がすごい一生懸命に電車を追いかけていたところがかわいそうだった。
- 上の人からの命令に従わずに自分の意見で、ユダヤ人たちを助けたことはすごいなと思った。
- ・千畝さんが列車に乗る寸前までビザを書き続けていてすごいと思った。自分を犠牲にしてまで人を救うのはすごいと思った。
 - ・ビザで 6000 人もユダヤ人を助けることがすごかった。
 - ・杉原千畝は日本よりヨーロッパの方が有名だからもう少し日本での知名度が上がればいいなと思った。
 - ・ユダヤ人に 6 千人分のビザを発給したのはすごいなあつと思いました。戦争の最中なのに冷静に個人で判断し、実行したことは、日本人として誇りに思いました。自分を犠牲にして、誰かを助けるというのは、そう簡単にできるものではないと思いました。仮に、ビザの発行を止めたとしても、誰も文句は言えないと思いました。また、このように勇気を持って、人々を助けた人がいるかもしれないと思いました。そのような人々がある人からは感謝されても、一般の人にはなんも注目されずに、人々の記憶から消えていくのは残念に感じました。杉原さんがこのような事が出来るってことは、すばらしい事だと思いました。
 - ・超イケメンですね。マジカッコイイ。
 - ・ミスター・センポはユダヤ人のために自分を犠牲にしてまで尽くす。ユダヤ人にとって、これからも正義の人に違いない。そんな人が昔の日本にはいっぱい欲しかったと思った。最後までビザを書き、電車の中で(やりきれなかった)と泣いている姿や、イスラエル大使館でユダヤ人に会っているシーンがとても心に残っている。命の大切さを一番日本人でわかっている人だ。
 - ・ユダヤ人がそんなに殺されているなんて知らなかったので、ひどいなーとか、かわいそうと思った。それを救った杉原千畝さんはすごいと思った。
 - ・千畝さん良い人すぎやった！(中略)差別は絶対あかんと思った。昔の人間って、心すさんでんなあ～。
 - ・めっちゃ良い人やと思った。自分はアンネ・フランクの話がめっちゃ好きで、普通に良かった。(中略)ユダヤ人は服に星付けやなあかんかったり、めっちゃかわいそう。でも、ビザで助かった人はほんまによかったと思う。

【後記】

まず、始めに驚いたことは提出者の 53 人のうち、17 人の生徒が杉原千畝さんことをこの学習以前から知っていたという事です。(全体の 3 割超)

また、印象的だったのは DVD の後半で涙を流しながら見ている生徒や、最初は斜に構えながら見ていたものの、後半で食い入るように見ていた生徒の存在でした。

人として正しい行為をしている人に対して、きちんと敬意を表すという姿勢は、これから世の中に出していく中でとても重要なことだと思います。

杉原さんの他にも、ユダヤ人救済のために動いた日本人はたくさんいます。

杉原さんとタッグを組んで、ユダヤ人が動きやすくなるように手配した根井三郎(ウラジオストク総領事代理)や、先述の大迫辰雄氏、樋口季一郎(元陸軍中将)など。

ユダヤ人救済以外でも、世界で愛されている『日本人が知らない日本人』はたくさんいます。
ぜひ、機会があれば調べてみてください。